令和３年度　県立神戸鈴蘭台高等学校　学校評価（目標と評価方法及び評価結果）

１　学校経営のテーマ

【教育方針】

本校は、鈴蘭台高校の校訓である「優雅」と鈴蘭台西高校の校訓である「創造」に、新たに「共生」を加えて校訓とし、これらの校訓のもと、自主自律の精神に富んだ人づくりを目指している。

また､神戸市内の県立学校として唯一国際関係コース(国際コミュニケーションコース)を有する本校は、グローバル化の進む社会において、世界的な視野とコミュニケーション能力を持ち、多文化共生社会の実現をめざしつつ、国際社会で活躍できる人づくり、変化の激しい社会においても、幅広く活躍し、社会に貢献できる人材の育成をめざしている。

このような人づくりを実現するために、以下のような教育方針を定める。

(1)　夢や希望、志を実現するために必要な「確かな学力」を育成する。

(2)　生命を尊重し自他に対する肯定的な態度や豊かな心、すこやかな身体を育む。

(3)　国際理解、多文化理解を深め、世界的な視野を持った人づくりを推進する。

(4)　保護者・地域などとの連携・協力を密に行いつつ、社会に貢献できる人づくりを進める。

２　本年度の重点目標

第３期「ひょうご教育創造プラン」を踏まえ、次の５項目を重点目標とする。

(1)　夢や希望、志を実現するために必要な「確かな学力」を育成する。

ア　生徒が夢や希望を持ち、将来の目標を適正に定められるよう、キャリア教育及び進路指導のさらなる充実を図る。

イ　生徒の基本的生活習慣、基礎的・基本的な学力の定着や体力の向上を図る。

ウ　将来の進路目標を実現し、社会で活躍し貢献できる人づくりを進めるため、基礎的・基本的な知識に加え、それを活用する思考力・判断力・表現力・主体的に学習に取り組む意欲・態度などの確かな学力の充実を図る。

(2)　生命を尊重し自他に対する肯定的な態度や豊かな心、すこやかな身体を育む。

ア　体験活動を通して自ら学び、考え、体得する教育に力を入れ、時代を越えて変わらない倫理観や公共心の育成など心の教育の充実を図るとともに豊かな人間性を育成する。

イ　校内の緑化と美化に励む伝統を継承し、本校の恵まれた自然環境の中で、生徒の豊かな情操を養う。

ウ　生命の尊さや、他を思いやる心を育て、防災・安全教育を充実させる。

(3)　国際理解、多文化理解を深め、世界的な視野を持った人づくりを推進する。

ア　国際理解教育を充実させ、世界の人々に信頼され、国際社会の一員として責任を果たせるよう、国際性豊かな共生の心を育む。

イ　特に国際コミュニケーションコースにおいては、英語によるコミュニケーション能力のさらなる伸長を図るとともに、さまざまな分野において国際舞台で活躍できる人材を育成する。

(4)　保護者・地域などとの連携・協力を密に行いつつ、社会に貢献できる人づくりを進める。

ア　生徒の地域社会の活動への参加及び地域住民の本校教育活動への参加など、開かれた学校づくりを積極的に進め、家庭・地域社会と互いに連携しながら、いきいきとした魅力ある教育活動を展開する。

イ　自主自律の精神に富む人づくりに努め、明朗・闊達な精神と文化を尊ぶ校風の継承と発展を図るとともに、時代の進展や社会環境の変化に対応した学校づくりに取り組む。

(5)　組織的・計画的な教育活動への取組と職員研修の充実を図る。

ア　本校の教育目標の達成をめざし、各教職員が学校組織の一員として緊密に連携し、協力しながら、それぞれの課題に取り組む。

イ　高大連携、高大接続改革、新学習指導要領など、教育環境の変化に対応し、生徒たちの夢をかなえる教育の充実を目指し、学校単位をはじめ、個々の教員においても積極的な研修の取組みを推進する。

３　総合的な自己評価及び次年度に向けた改善点

(1)「総合的な探究の時間」を軸としてキャリア教育に取り組んだ結果、学年が上がるほどに自分の進路について計画的に情報を集めようとする割合が高くなっている。また、７割の生徒が本校のキャリア教育プログラムが進路を考える上で役立ったと回答している。今後、全ての生徒にキャリアプランニング能力の育成を図っていくために、中学校からのキャリアパスポートやキャリアノート、Classiの機能を十分に活用し、生徒が主体的に３年間をとおした自身のキャリア形成を図っていけるよう、組織的・体系的なキャリア教育のあり方を検討していく。

(2)授業について、６割強の生徒がICTが効果的に活用されており、授業内容に興味関心がわき、集中して授業を受けることができていると回答している。今後、新しい時代に必要となる資質・能力の育成を図っていくために、BYOD導入を含めたICT環境を効果的に活用した授業力向上と指導と評価を一体化させた授業改善に取り組む。また学校図書館の利用が１割強と低い。今後、学習センターとしての学校図書館の機能充実と活用を検討していく。

(3)国際コミュニケーションコースを核としてグローバル教育を進めた結果、一般クラスを含めると６割の生徒がグローバルな人づくりのためのプログラムが充実していると回答した。コースの生徒を中心に「土曜日英会話教室」「韓国・台湾とのオンライン授業」「短期語学研修代替プログラム」など各種体験プログラムが充実したが、今後は、コースの生徒だけでなく、一般クラスを含めた全ての生徒が参加し体験できるプログラムの充実を図っていく。

(4)コロナ禍の中「高校生ふるさと貢献・活性化事業」等で予定していた内容の変更や中止を余儀なくされたが、和太鼓部による各種地域行事の参加や、編集部による鈴高新聞、鈴高miniプレスによる広報、新たに「北区活性化プロジェクト」「フラワープロジェクト」等の新規プロジェクトを実施し、文化部を中心に多くの生徒が活動に取り組んだ。その様子はＨＰで校外に広報するとともに、校内に掲示することで活動の見える化を図ったが、「生活の意識や活動に関するアンケート調査」で入学後に「高校生ふるさと貢献・活性化事業」において地域と協働した活動に参加したと意識している生徒は、直近で地域の清掃活動に参加した１年生が97.5％であるのに対し、２，３年生では１割程度に下がっている。全ての生徒が参加し体験できる機会の充実を図っていく。

(5) 今年度から「通級指導教室」実践校として通級指導教室（ｱｿｼｴｰｼｮﾝﾙｰﾑ）の設置、学識経験者による教員研修や特別支援教育の視点で配慮が必要な生徒についての研修を実施し、学校全体で共通理解を図る体制が整った。今後は、通級指導教室（ｱｿｼｴｰｼｮﾝﾙｰﾑ）の充実と生徒理解に向けた研修を充実する。

４　学校関係者評価総括

(1)県事業を活用した特色ある教育活動の取組みについて、生徒が主体となって積極的に地域との交流や活性化に取組んでいる姿勢や、保育園から大学、地域、海外の高校との交流と多岐に渡る取組みが、生徒にとって地域への愛着や世界へ眼を開く良い機会になっていると高評価をいただいた。また、外国人講師による直接の指導や韓国、台湾の高校生との交流等、今後さらに取組みを広げて欲しいとの意見をいただいた。

(2)本校の学校評価は重点目標を前提とした素晴らしい展開のもと、学校教育を実践し結果に繋げているとの評価をいただいた上で、学校教育の展開の礎、昨今の社会変化に伴う学校教育の展開等について、様々な角度から示唆をいただき、今後の学校運営に活かしていく。

5　重点目標別自己評価結果

重点目標	実践項目	評価方法	評価	達成状況と改善の方策
(1)夢や希望、志を実現するために必要な「確かな学力」の育成	①生徒が学習活動にスムーズに取り組めるよう、校内環境の整備・充実を図る。【総務部】	①学校評価アンケートなどにより評価する。【総務部】	C	①学校評価アンケート(保護者用)の「清掃・環境美化に力をいれているか」について、ほぼ半数が「少しそう思う」と回答した。また、記述回答では、校舎の老朽化やトイレを中心とした設備に関する改善要望があった。トイレに関しては来年度以降に改善が見込めるが、生徒が充実して学習に取り組める環境整備に向けて今後も取り組んでいく必要がある。【総務部】
	②教員が授業研究に費やす時間や労力を確保できるよう、校務全般を見直す。【総務部】	②学校評価アンケートなどにより評価する。【総務部】	B	②学校評価アンケート(教職員用)からは、実際の教員の勤務時間の変化を確認できなかったが、「勤務時間適正化に前向きに取り組むことができたか否か」について、学年所属、専門部所属により回答結果が異なる結果となった。学年所属教員の負担となっている校務について検討し、一部の教員に偏りがないようにしていく必要がある。【教頭・総務部】
	③公開授業週間の取組内容を全面的に見直し、新たな形式で授業研究を推進する。【教務部】	③授業研究の参加者数により評価する。（目標：100%）【教務部】	A	③これまでの公開授業週間の実施を変更し、新たな取り組みとして、教員を3～4人グループに分けお互いの授業を参観し合い、意見交換するという取組みを行った。全員が参加する授業改善の取組の一助となった。事後に実施した職員アンケートからも概ね好評を得たので、次年度も継続して実施したい。【教務部】
	④来年度１年生からの BYOD 実施に向けて、ＩＣＴを効果的に活用した授業研究に取り組む。【教務部】	④授業におけるＩＣＴ使用率により評価する。（目標：75%以上）【教務部】	A	④学びのイノベーションにで、昨年度から普通教室にWi-fi、プロジェクター、スクリーンが設置されたことにより、授業におけるICT機器の活用頻度が上がった。また、ICTを効果的に活用するための研修を適宜行い、授業におけるICTの効果的な活用方法について、研鑽を積むことができた。2学期から黒板にスクリーンを常時設置したことにより、83%の教員が ICT を活用した授業を行うようになった。【教務部】
	⑤基本的生活習慣の定着をはかる。夜遅くまでスマホを使用するなど遅刻・欠席の原因となる生活習慣の乱れを是正する。【生徒指導部】	⑤生活実態調査などで実態を把握しその変化を検証することで評価する。【生徒指導部】	B	⑤大半の生徒は、遅刻・欠席が少なく、基本的生活習慣が守れているが、一部に遅刻・欠席の多い生徒が見受けられる。学校評価アンケート(生徒用)で「生活習慣が身についている」と回答した生徒 57%に留まった。今後、スマホの利用時間などについても含め啓発していく必要がある。【生徒指導部】

重点目標	実践項目	評価方法	評価	達成状況と改善の方策
(2) 生命を尊重し自他に対する肯定的な態度や豊かな心、すこやかな身体の育成	①防災意識を高め、自他の命を守る具体的行動を考えさせ訓練などを実施する。【総務部】	①避難訓練など防災学習実施後の学校評価アンケートなどにより評価する。【総務部】	C	①学校評価アンケート(生徒用・教職員用)の結果では「そう思う、少しそう思う」が大半であったが、保護者の回答では3割程度が「あまりそう思わない」となった。今年度は密を避けるため、従来の屋外まで逃げる避難訓練を実施することができなかったが、今後は新型コロナウイルスの感染状況に応じた組織的・計画的な避難訓練や防災学習の在り方を再検討していく必要がある。【総務部】
	②生徒の健全な心身の成長を意図した、保健関連の講演会・研修会などを実施する。【総務部】	②講演会、研修会実施後の学校評価アンケートなどにより評価する。【総務部】	B	②１年生向けに「ＡＥＤを使った救急救命法」講習会を実施し、学年担任の協力も得ながら熱心な取り組みとなった。２年生向けに「デートＤＶ防止授業」を行い、ＤＶ被害者は一方的に女性というわけでないなど、より理解を深めることができた。アンケート結果はいずれも概ね良好であったが、生徒のニーズにあった講演会、研修会のあり方を検討していく必要がある。【総務部】
	③学年集会や全校集会における「いじめ」に関する講話を通して、命を大切にし自他を尊重する態度を育成する。【生徒指導部】	③「いじめ」に関するアンケート調査を年３回実施し、その内容を検証することにより評価する。【生徒指導部】	B	③年３回「いじめ」アンケートを実施し、いじめ項目にマークのあった生徒については個別に学年、担任が状況を聞き取るなど、早期発見・対応、見守りを行った。重大な「いじめ」事案はなかったが、今後はいじめ防止に向けたＨＲ活動などを積極的に行っていく必要がある。【生徒指導部】
	④人権教育を通して人間性豊かな人材の育成を図る。【人権教育推進委員会】	④人権 HR（映画）後の生徒感想文（作文）の内容により評価する。【人権教育推進委員会】	A	④今年度も新たに人権テーマを設定し、ＬＨＲなどをとおして組織的に人権教育を推進したことにより、生徒の人間性を豊かにすることができた。【人権教育推進委員会】
	⑤県庁、県警、看護など各種インターンシップの参加を促進し、キャリア形成に資する体験活動を通じた機会を充実させる。【進路指導部】	⑤インターンシップの参加状況や生徒感想文などにより評価する。【進路指導部】	B	⑤ふれあい看護（看護におけるインターンシップ）の参加者からは、実際に医療の現場で働いている看護師、放射線技師、作業療法士、薬剤師といった様々な職種の話が聞けて視野が広がり、進路選択に体験が生かしていけるといった肯定的な感想があった。コロナ禍において、インターンシップを予定していた病院が軒並みキャンセルとなるなど、推進していくうえで難しさがあったが、来年度以降は１，２年生の参加も含み推進していく。また、今年度の公務員希望者は全員県庁インターンシップに変えて兵庫県警のインターンシップに参加し、神戸北警察署の進路指導協力を得て、うち２名が２次試験に合格した。【進路指導部】
	⑥卒業後の希望の進路に向けて、家庭での学習時間を確保し、学習時間の確立を図る。【進路指導部】	⑥学校評価アンケートなどにより評価する。【進路指導部】	B	⑥学校評価アンケート（生徒用）では１，２年生の40%、３年生の61%が家庭における学習習慣（予習・復習）が身についていると回答した。１年生の59%、２年生63%、3年生64%が定期考査や課題考査は、学習計画を立てて取り組んでいると回答したが、全体の53%が、日常的な家庭学習に取り組めておらず、全体の37%が定期考査などの直前であっても計画的に学習に取り組めていないことが分かった。１年生の44%、２年生57%、３年生の89%が自分の進路について計画的に情報を集めていると回答し、進路について関心がある一方で、必ずしも日常的な学習には結びついておらず、将来への進路と結びついていない生徒が多いことが分かった。学習記録をつけるなど、日常的な学習の達成感を得られるよう促す必要がある。【進路指導部】

重点目標	実践項目	評価方法	評価	達成状況と改善の方策
(3) 国際理解、多文化理解を深め、世界的な視野を持った人づくりの推進	①国際コミュニケーションコース体験入学をはじめとした各種行事に積極的に協力をし、広報活動を行う。【総務部】	①各種行事実施後の参加者アンケートなどや、国際コミュニケーションコース志願者数により評価する。【総務部】	B	①国際コミュニケーションコース体験入学実施後のアンケート結果では、概ね良好な回答が得られた。今年度はオープンハイスクールと合わせて広く広報活動を行い、推薦入試、一般入試ともに募集定員を超える志願者数であった。【総務部】
	②ワークキャンプなどを通して、これまで経験したことのない仕事や人々との交流を図ることにより、広い視野をもって考えるグローバル人材を育成する。【生徒指導部】	②ワークキャンプの参加者数や生徒感想文などにより評価する。【生徒指導部】	C	②ワークキャンプに６名の生徒が応募していたが、コロナ感染拡大に伴い中止となった。今後はコロナ禍における体験活動のあり方を検討し、様々な人々と交流を図る活動を実施していく必要がある。【生徒指導部】
	③中・長期留学プログラムななどについて情報収集を進め、来年度に向けて海外留学への参加を促進する。【コース・国際事業委員会】	③情報収集、海外留学の促進体制の状況により評価する。【コース・国際事業委員会】	A	③新型コロナウイルス感染症の流行により、学校としては中・長期留学プログラムの実施や情報提供を中止せざるを得なかったが、公的な機関や民間を含めた情報収集を継続し、個人個人のニーズに応じて相談に乗り、情報提供を行うことができた。　【コース・国際事業委員会】
	④外部講師による土曜英会話クラス、イングリッシュキャンプ、英検や GTEC などの資格取得の支援、スピーチ大会やディベート大会などへの参加、台湾及び韓国の高校とのオンラインセッションなどの取組みを通して、英語をはじめとする外国語教育を充実するとともに、国際理解教育を推進することにより、確かな英語力と英語コミュニケーション能力を育成する。【コース・国際事業委員会】	④学校評価アンケート、英検や GTEC の検定結果により評価する。【コース・国際事業委員会】	A	④今年度より 1 年コース生徒に対して土曜英会話教室を開催し、スピーキング能力が向上した。台湾・韓国の高校とのオンラインセッションをのべ５回行い、国際理解教育を実体験として味わうことにより、第二外国語の学習の動機付けにもなり、その後の交流にもつながった。 スピーチ大会・レシテーション大会の外部大会のほか、昨年度参加しなかったディベート大会へも出場を果たし、他校との交流の機会にもなった。その他、校内の各種取り組みにより、生徒の英語に対する意識付けになり資格試験の結果にも表れている。【コース・国際事業委員会】
	⑤生徒にグローバルな機会を提供するため、短期海外研修の代替プログラムを実施する。【コース・国際事業委員会】	⑤参加者へのアンケートにより評価する。【コース・国際事業委員会】	A	⑤感染症の流行拡大により短期海外研修が中止になっても、グローバル体験の機会の提供を諦めず、代替プログラム「Go!Global」を３つ、「世界が鈴高にやってきた」プログラムを２つ実施した。参加者の満足度は大変高く、英語学習へのモチベーションも高まった。【コース・国際事業委員会】
(4) 保護者・地域などとの連携・協力を密に行いつつ、社会に貢献できる人づくりの推進	①学校ホームページなどを活用して生徒の様々な活動を校内外に積極的に発信することで、生徒自身に活躍する喜びや応援し支えられている意識を持たせ、地域・家庭との連携につなげる。【総務部】	①ホームページ閲覧数の変化及び学校評価アンケートなどにより評価する。【総務部】	B	①学校評価アンケート(保護者用、教員用)では「ホームページ」に関わる項目について、「そう思う・少しそう思う」が大半であったが、生徒に関しては、「あまりそう思わない」が2割程度おり、世代によりホームペーの活用度合いが異なることが分かった。また、ホームページ閲覧数に関しては、4～1 月で 50 万アクセスを超えており、例えば 12 月1ヶ月単位で比較すると、R2 年度の9千アクセスに対し、R3年度は4万５千アクセスで、約5倍となっている。今後についても引き続き、各部・学年で随時更新することで広報に取り組んでいく。【総務部】

重点目標	実践項目	評価方法	評価	達成状況と改善の方策
(4) 保護者・地域などとの連携・協力を密に行いつつ、社会に貢献できる人づくりの推進	②「総合的な探究の時間」や課外活動などを通して、地域に貢献し、地域を活性化する取組みを推進し、社会に貢献する人づくりを進める。【生徒指導部】	②学校評価アンケートなどやふるさと貢献・活性化事業の参加者数、生徒感想などにより評価する。【生徒指導部】	A	②１年生がふるさと貢献活動として地域清掃活動を行った。事後の感想においても自己達成感を記した感想が多く見られた。部活動では和太鼓部、ダンス部、編集部、吹奏楽部、福祉活動部など文化部を中心に地域の活動に積極的に参加し貢献することができた。【生徒指導部】
	③社会人講話を実施し、実社会で期待されている人材（人財）の要件を生徒、職員が共有する。【進路指導部】	③学校評価アンケートなどにより評価する。【進路指導部】	B	③学校評価アンケート（生徒用）では70％の生徒が「総合的な探究の時間」でのキャリア教育プログラムが自分の進路を考えるうえで役立ったと回答し、72％の生徒が社会に貢献できる人づくりのためのプログラムが充実していると回答した。今後もキャリア教育プログラムのあり方について全教職員が共有しながら、組織的・計画的に進めていく必要がある。【進路指導部】
(5) 組織的・計画的な教育活動への取組と職員研修の充実	①担当業務を明確化し、組織的に取り組むことで業務の効率化を図る。【総務部】	①学校評価アンケートなどにより評価する。【総務部】	B	①学校評価アンケート（教員用）の回答結果で、学年については「あまりそう思わない」が１割未満であるのに対し、専門部については３割となっていることから、専門部に関して、今後、各部で担当業務の見直しを図っていく必要性がある。【総務部】
	②生徒にどのような力を育成するのかの視点で行事運営の見直しを図る。【総務部】	②学校評価アンケートなどにより評価する。【総務部】	B	②学校評価アンケート（教員用）の回答で学年については「あまりそう思わない」が１割未満であるのに対し、専門部は２割程度となっていることから、特に学年に所属していない専門部の教員は「生徒への教育効果」を意識した学校行事運営を企画していくことを共有していく必要がある。【総務部】
	③先進取組校への教員派遣を実施し、職員研修会で報告機会を設け全職員への還元を図る。【教務部】	③職員研修実施回数により評価する。（目標：年１回以上）【教務部】	C	③コロナ禍のなか、予定されていた職員研修会が中止になったりオンラインに切り替わった。今後、計画的に先進校へ教員を派遣し、全職員に還元を図っていく研修体制を構築していく必要がある。【教務部】
	④生徒会・部活動・学年などと連携しながら学校行事や地域活動などに自主的/自立的に取り組む生徒を育成する。【生徒指導部】	④各行事の事後アンケートや学校評価アンケートなどにより評価する。【生徒指導部】	A	④学校評価アンケート（生徒用）では87％の生徒が学校行事に積極的に取組めたと回答しており、文化祭や体育祭オープンハイスクールなどで生徒会・部活動・学年が協力し自主的・自律的に取り組むことができた。【進路指導部】
	⑤学年と連携し、１学年「総合的な探究学習」で用いている「進路サポート」（キャリアノート）やキャリアパスポートを積極的に活用した体系的・系統的なキャリア教育を推進する。【進路指導部】	⑤学校評価アンケートなどにより評価する。【進路指導部】	B	⑤学校評価アンケート（生徒用）では、１年生の62％、２年生81％、３年生67％が、本校のキャリア教育プログラムが自分の進路を考えるうえで役だったと回答しており、３年間を見据えたキャリア教育に関する年間計画のもと、組織的、継続的にキャリア教育を実施することができた。しかし、学年により有意差が見られることが課題となる。今後は進路指導部と学年進路担当との連携を密にはかり、生徒に学びと将来とのつながりを考えさせるキャリア教育を推進していくことが必要になる。【進路指導部】